

みなさまいかがお過ごしでしょうか。

三月二十九日から親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年の慶讃法要が京都西本願寺で始まりました。二〇一二年に行われた親鸞聖人七百五十回大遠忌法要から十年余り、その間に阿弥陀堂や唐門、飛雲閣などの国宝建築の大規模な修復工事が行われました。また、ご門主の代替わりがなされ、それに伴う様々な式典や伝灯奉告法要も勤まりました。西本願寺において常に何かが動いていた日々だったように思います。

坊守は慶讃法要が始まってすぐ、四月一日に参拝させていただきました。長い時間をかけてやつと落ち着いたとでも申しましょるか、美しく整えられた両御堂と境内が参拝の人々を迎え入れてくれました。

この度の法要では、準備期間がコロナ禍だった影響で、参拝できる人数が少ないことが大変残念に思います。ただ、オンラインでのライブ配信が行われています。本願寺ホームページからどなたでも視聴することができます。法要だけでなく、お道具の紹介や仏事の作法の説明などが続いてあり、工夫を凝らして面白く作られています。京都へのお参りはかなわなくとも、ご自宅で今回のご縁に遇っていただくこともお勧めします。

行事予定

五月二十四日

光圓寺 春季永代経法要

二十五日

東京教区 石上光鏡師

両日とも午後一時半より

★サミットの交通規制は二十二日までです

五月 二十六日

ヨガの会

★お知らせ

十月二十四日

秋季永代経法要

二十五日

報恩講

今年のお齋接待のお当番は打越地区です。皆様どうぞよろしくお願いいたします。



報恩講法座のお齋を再開します

新型コロナウイルス感染症拡大防止のためにお休みしておりました秋の報恩講法座でのお齋の接待を今年再開いたします。

今年に入り、公的な見解として新型コロナウイルス感染症をインフルエンザと同等の扱いにしていくこととなり、マスクの着用も任意とされました。これを受けて、ある程度の感染症対策は行いながらもお齋を再開させていただくことにいたしました。

三年間という長い間、お齋の振る舞いがなかったことは大変残念なことでしたが、改めてご縁のある方々との集いや一緒に過ごす時間の大切さを知る時間ともなりました。

久しぶりのお齋のお席にどうぞ皆さまもお着きいただきますよう、ご案内申し上げます。

お浄土に興味津々？

今年一月にお勤めしました御正忌法要において、住職の法話の中で、次のような問いかけがありました。

「お浄土は、はるか彼方の遠きにあるのではなく今の私たち生と地続きにあり、お念仏が橋渡ししとなってそこに生まれさせていただくのです。次に続いていくとわかれば、続いていく先、つまりはお浄土のことが知りたくなるものです。」
さあ、私はどうでしょう。お浄土のことについてどれだけの興味を持っているでしょうか。どれだけ知りたいと思っっているでしょうか。

これから進んでいく先にあるものがわかっていれば誰しもその先がどのようなかを知りたくなるものです。
小学生が中学校へ進学していく時を想像してみてください。



新しい制服や中学校の建物にワクワクするだけでなく、自分の生活がどのように変わっていくのか、期待と不安の入り混じった気持ちとともに中学校がどのような場所でのようなことをするのか興味向き、知ろうとするでしょう。

そこには、小学校を卒業して中学校へ入学していくことは必ず

やってくる未来として、何の疑問もなく受け入れている確信があります。

今、私が生きている生と地続きにお浄土があるという確信を私が持っているとするならば、私はもつともつとお浄土がどのような世界なのか興味を持つのではないのでしょうか。

思えば、仏説阿弥陀経では浄土がどれだけ素晴らしいか、美しく穏やかな世界であるかが説かれています。そのご法話をお聴聞する機会も多いですが、私の関心の重きはそちらではなく、今ここの生のほうに在るというのが正直なところ。阿弥陀如来の大慈悲のおはたらきに頼み申し、お任せするほかないと思いつつも、その先のお浄土ではなく、今の生をどのように生きていくのかということに私の目は留まったままということに気づかされます。

『歎異抄』に、どれだけお念仏申してもお浄土へすぐさまお参りしたい気持ちにならないと唯円が親鸞聖人に告白するのに対して「私もそうだよ」と親鸞聖人は受けてくださったという有名な一説があります。続けて、そしてそれは煩惱のなせる業だと聖人はお説きになります。続けて、それほどお浄土の素晴らしさを知ったとしても、それでもこの迷いの世界に生きることに執着してしまふほどわが身の煩惱は盛んであり、このような迷いの深い者を阿弥陀如来はことさら悲しんでくださったのだ、それを思えばますます阿弥陀如来の大慈悲は頼もしくおもわれると説かれます。

自らの煩惱の猛々しさに気づくとき、救われないと絶望するのではなく、如来のはたらきの強さに転じて喜びとなす聖人のお導きが有難いと感じます。